

生物系学術誌の挑戦は間に 合ったのか(2003-2008)

社団法人日本動物学会 事務局長/
UniBio Press 代表
永井 裕子

半周遅れ？3周遅れなのか？

何が遅れていたのか？いるのか？

デジタル化？

SparcJapan

NII 2003

- 学術情報の世界を概観できる研究者、図書館関係者はおいでだった。
- 日本の学術誌を、良くするためには何をすべきかは了解されていた。
- 図書館の状況は特によく理解されていた。
- 日本の学会の現状は、Sparcが開始される以前は、知る機会はなかった。

SparcJapan

学会 2003

- 自らのジャーナルは良くしたい
- 電子ジャーナル時代だとは認識
- 出版費以外の活動へ補助をしてくれるかな
- 電子投稿査読システムを使ってみたい
- コンサルタントから意見を聞けるのか
- 大学図書館へ販売してくれるのかな
- 電子ジャーナルをめぐる学術情報が変革しているという認識は弱かった。(なかった?)

SparcJapan—今までにない活動

- 用意されたものに乗れば良い、という活動ではなかった。
- 自ら考え、悩み、自らの力で「自分の必要とするもの」を獲得する必要がある活動だった。
- 活動に対する学会の意見は反映された。
だがSparcは迷走しなかった。(NIIの方針明確)
- 言葉をかけあうこともなかったであろう、学会編集局の方々との意見交換、相談の場を形成
- 日本で学術誌を発行する意味を考えさせられた。
もしくは、学会活動をする意味。

(生物系)はじめに、BioOneありき

2004

- Sparc精神そのものの中での出発
- BioOneとの関係をどう生かすか
- UniBioを立ち上げ、購読料は返せるのか？ - 賛同してくださる学会はあるのか？

なぜ

2004

- Zoological Scienceは良くしたいが、わたくしがどうしてUniBioの面倒を見るのか？
- 動物学会の理事は反対はしなかったが、当時の会長からは「よくわからない」と言われる。

購読料！（2004）

- 何が基準なのか？
- いくらで売るのが良いか
学会の立場-できるだけ高く！
図書館の立場-予算がない。
- ビジネスモデル-ジャーナル制作費を購読料で賄いたい！Sparcの思想に則り。
3万円 - 5万円 -6万円 -1000ドル(購読料)
販売してこそわかるジャーナルとは何か？
販売してこそわかるオープンアクセスとは何か？

2004

- エンバーゴって何？
- サイトライセンスは何？
- 知らないことばかり-----
- 金属学会さんやIPAPさんからは、購読料が安すぎると言われる！有難いことだ。

どうする日本の学術誌

- 2004.10.19

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/backnumber/2004/1019.html>

研究者、学会、ベンダー、図書館
参加者の多くは図書館の方々だった！

次々とまき起こる問題！

2004-2006

最大の懸案オープンアクセス

- Heather Joseph →Susan Skomalへ交代
- 契約書の取り交わし(新しい言葉！日本の弁護士にとって)
- BioOne. 2への参画？-BioOne.1の予定が---
- ベンダーの交代
- そして、XML、その製作と変換

もうだめかもしれない---

2007.1.2

- BioOne から、UniBioジャーナル公開開始
(SparcJapanの支援があつてこそ！)

次々起こるさらなる問題

IF問題

2007

- IFがないジャーナルは、BioOneに参加できない !
- BioOneコレクションとして相応しいジャーナル(BioOneの基準)しか参加できない。

→コンテンツ量と購読料返還の問題が背景には→コンテンツを増やせば良いとはいかない

XML

2008

- 2008年11月6日 BioOneからのメール

「2009年からはXMLを作成する必要はない。
PDFから、必要な形式を備えたXMLを
BioOneで作成。」

なぜ！！

様々なXMLがやって来た

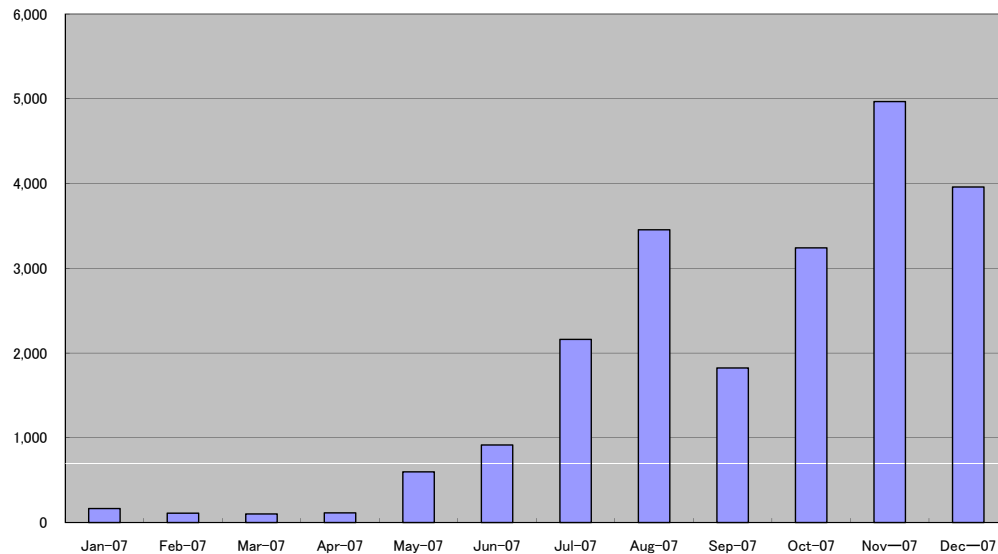
- BioOneが要求する様式を満たさないXML
- 検証し、修正をかけるコストが高い。
- PDFから、最適なXMLを作成するほうがコストが安い。

→世界中の多様な出版社を抱えるBioOneの悩み

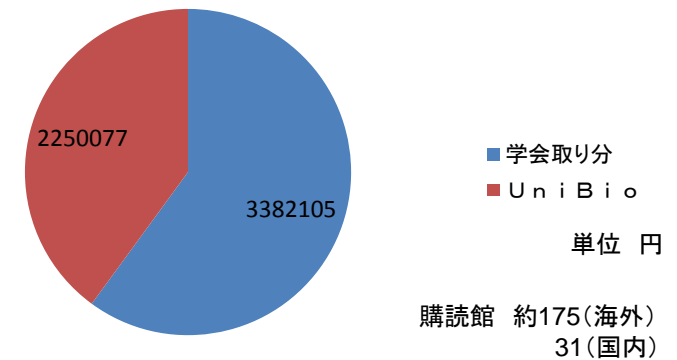
明解な購読料返還

- ボリュームとダウンロード数に依拠する。
- 2005年以降の出版物に対する購読料
- だが、明解なゆえに、慎重に参加誌を選ぶ必要がBioOne側にはある。

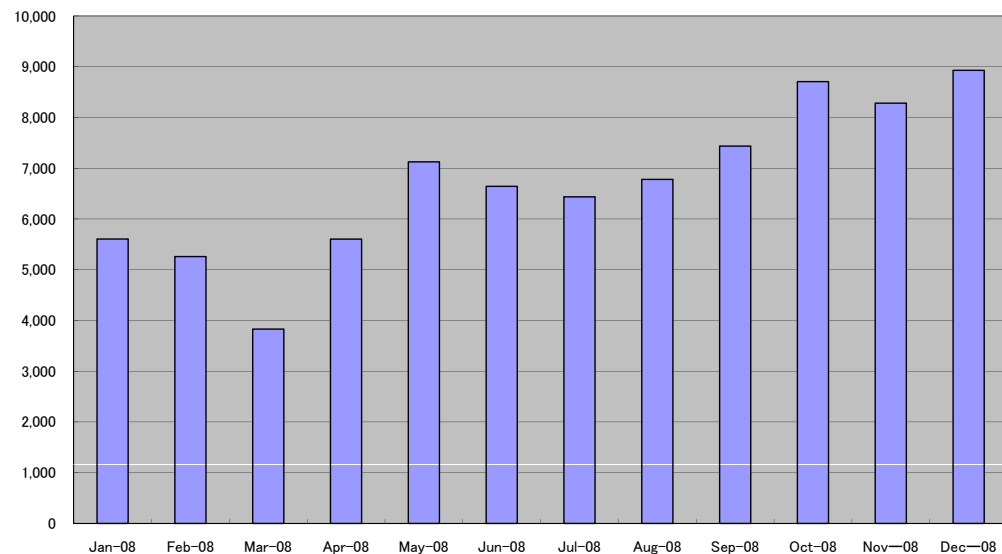
Zoological Science (BioOneフルテキストDL件数2007年)



UniBio Press購読料収入 2007



Zoological Science (BioOneフルテキストDL件数2008年)



Zoological Science

- 過去分をBioOneでオープンアクセス
- オープンアクセス論文へのアクセス数増大
- しかしながら、オープンアクセスが論文の引用に結びつくかは、検討の余地がある

UniBio Press 2008

- 3月初旬には返還購読料決定
- 購読館 海外300大学図書館
うち、オランダは全大学図書館で購読。

ジャーナル出版

1993

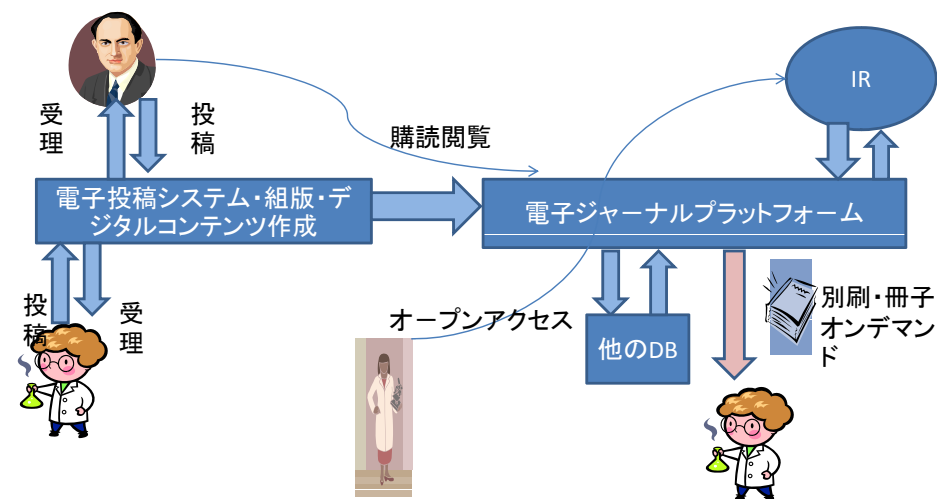
科研費を取得して、冊子を印刷すること。

1999

「電子ジャーナルをJstageにアップ」が追加

Sparcに参画して

- ジャーナル出版とは「製作」を意味するのではなく、**投稿査読**、**デジタルコンテンツ作成**、**プラットフォーム**、別刷り、冊子印刷という流れの中で、それらのさらに新しいシステムを踏まえ、この流れを支えるための**資金**をどう獲得し、同時に、ジャーナルの**知名度を上げる**方策を考える-----という一貫したモデルを**常に創造**し続けること。



ジャーナル出版2009

そして

- **経済危機**
ICOLC Statement on the Global Economic and Its Impact on Consortial Licenses
January 19, 2009
- **円高**

- **経済危機が、学術情報流通を変革するか？**

ありがとうございました。

永井裕子 zsj-society@umin.net
nagai@unibiopress.org